

日本外交文書

大正十五年 第二冊 上卷

外務省

序

外務省では、明治維新以降のわが国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉上の先例ともなりうる基本的史料を提供する目的で、昭和十一年『日本外交文書』第一巻を公刊した。その後、戦争による中断はあったが、戦後、編さん事業を再開して、昭和三十八年には明治期の刊行を終え、大正期も近く完結の予定である。

また、このほか『日露戦争』、『ワシントン会議』等の特集を刊行し、さらに昭和期の編さんにも着手して『満州事変』の公刊をみるにいったった。

最近わが国をめぐる国際環境はいよいよ複雑多岐となってきたが、本書に収録された外交史料が対外交渉上の参考となり、また近代日本外交の歴史的研究に寄与することになれば幸いである。

昭和五十五年三月

外務省外交史料館長

例 言

一、本書に収録された文書は、原則として外務省所蔵記録である。

二、これらの文書を編さんしてきた本書の各分冊は、本年度については次の要領で区分される。

第一冊 国際会議、日ソ関係その他

第二冊 日中関係、その他

三、各分冊には原則として当該暦年限りの文書が収録され、これらの文書は、それぞれの事項の下に、文書の日付により暦日順に配列されている。

在外公館より本省宛電報については、発電日付を採用した。ただし発電日の不明なものは着電日を採用し、表題の日付の下に（着）を付した。

四、本書に収録された文書は、原則として原書の完全な再現であり、編さんに当って原書の改変、削除、簡略化などは行なわれていない。ただし明らかな誤字はこれを訂正した。

使用漢字については、固有名詞など特別な場合を除いては、当用漢字を用いることとした。

五、各分冊に当該分冊限りの日付順索引を付した。

目次

一 北京政府ト一般政況……………	一
二 国民政府ノ動静並ニ国民革命軍ノ北伐關係……………	二〇七
三 日中通商条約改訂問題……………	三六一
四 大沽事件……………	四二二
五 奉票暴落問題等ニ関スル奉天省政府トノ交渉……………	五六〇

六 北京関税特別会議関係

七 中国治外法権委員会會議関係

八 国民政府ノ関稅付加稅實施ヲ繞ル諸問題

九 東三省鐵道問題

十 雜件

付録 日本外交文書大正十五年第二冊(上・下卷) 日付索引

(以上 下卷)

事項一 北京政府ト一般政況

一 一月一日 在ヘルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東省特別区行政長官ノ人事ニ関シ意見具申ノ件

第一号

(一月二日接受)

本官発奉天宛電報第一号(同上)

特別区行政長官護路軍司令官及東支鐵道督弁ハ北滿ニ於テ最モ枢要ナル支那側權力機關ニシテ其人選如何ハ直ニ露支ノ關係ニ影響シ帝國ノ地位ニ波及スル処目下北滿ニ於ケル帝國在留民ハ支那側ノ旺盛ナル利權回收運動ト東支鐵道ヲ中心トスル赤露ノ經濟的進展トニ圧迫セラレテ意氣揚ラズ唯僅カニ露支勢力ノ拮抗及相互勢力ノ牽制ニ依リテ活動ノ余地ヲ保持スルコト御承知ノ如シ(十一月十四日外務大臣宛機密第一九〇号)然ルニ現状ヲ見ルニ支那官憲ハ些カ勞農ノ勢力ニ押サレ氣味ニテ赤露ノ地位ハ益々鞏固ナラントスル傾向アルガ故自然要路ニハ赤露ニ對シ強キ政策ヲ実行スル人物ヲ配置スル必要アリ此意味ニ於テ行政長官トシテハ于冲漢ノ如キ最適任者ナルヤニ見受ケラル唯于ハ東支督

弁ノ兼任ヲ希望シ曩ノ辭職モ一ニ兼任ヲ得ザリシ事実ニ胚胎スルヤ聞及ビタルガ故ニ行政長官ノミニテハ受諾ヲ肯ンゼザルヤモ計ラレザル処現在東支督弁劉尚清ハ温厚ニ過ギ到底赤露代表者ト太刀打チヲ為スコト六ヶ敷對支那側理事トノ關係面白カラザルガ故ニ于冲漢ヲ就任セシムルニ依ルモ妙策ナルベシ現在行政長官ト護路軍司令官トヲ兼ネタル張煥相ハ今次事變ノ際ノ態度(夫レニハ種々内情アリ何レ郵報ス)ニ鑑ミ一般ニ早晚更迭ヲ余儀無クセラルモノト噂セラレ当人モ亦其覚悟ヲ極メ居ル様子ナルガ同人ハ元來排外的傾向ヲ帶ブルモ我方從來ノ關係ヨリ見レバ他ニ適任者アラザル場合護路軍司令官トシテ留任セシムルコト可然カト思考セラル張煥相ハ二日当地發貴地ニ向フ管ナルガ奉天時局收拾ニ當リ北滿地方要路ノ人選問題モ張作霖ノ考慮ニ置カルベク右諸要人ト御會談ノ節自然話題ニ上ルベキカト思考シ当方面ノ事情御含ミ迄

大臣 北京へ転電セリ